

介護保険施設アンケート から見える 看取りとACPの課題

阿倍野区

在宅医療・介護連携相談支援室の取組み

阿倍野区医師会
在宅医療・介護連携支援コーディネーター 江口美佳恵

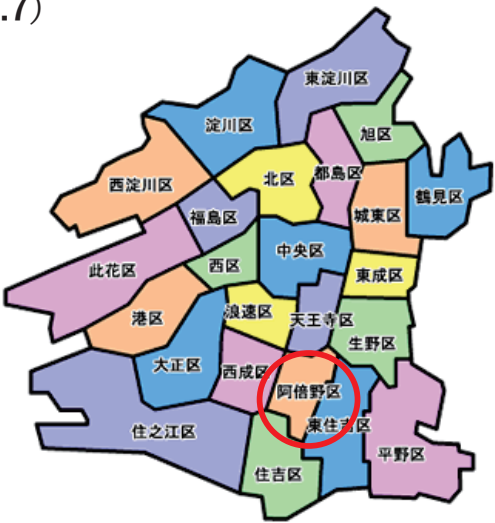


阿倍野区の概況

人 口 ： 113,129人（令和7年8月1日現在）

高齢化率 ： 25.4%（大阪市+0.7）

病 院	7
診 療 所	181
在宅療養支援診療所	36
地域包括支援センター	3
ブ ラ ン チ	2
居宅介護支援事業所	57
入所型介護保険施設	40
通所型介護保険施設	35
訪問看護ステーション	43



テーマに対する背景・課題 取組みのきっかけ

阿倍野区介護保険施設アンケート

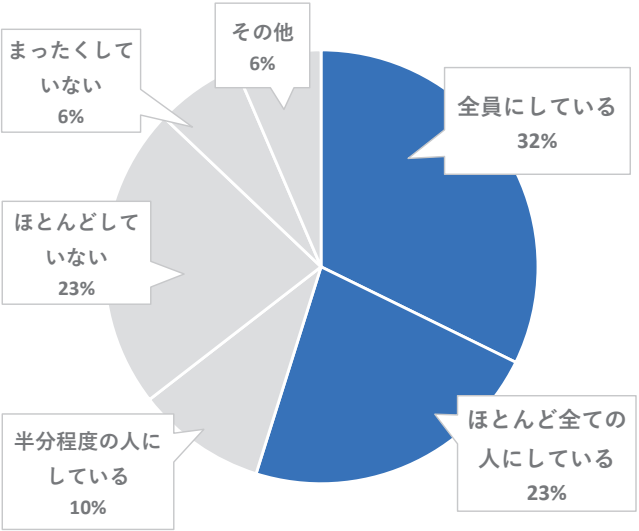
目 的	医療提供体制の把握と、課題の調査		
実施期間	令和7年3月～4月		
対 象	阿倍野区内の入所型介護保険施設	40施設	
	通所型介護保険施設	35施設	
内 容	医療提供体制、医療と介護の連携状況、困りごと、ACPの実施状況 など		
回答施設	入所型介護保険施設	31施設（回答率76％）	
	通所型介護保険施設	26施設（回答率74％）	

介護保険施設アンケート

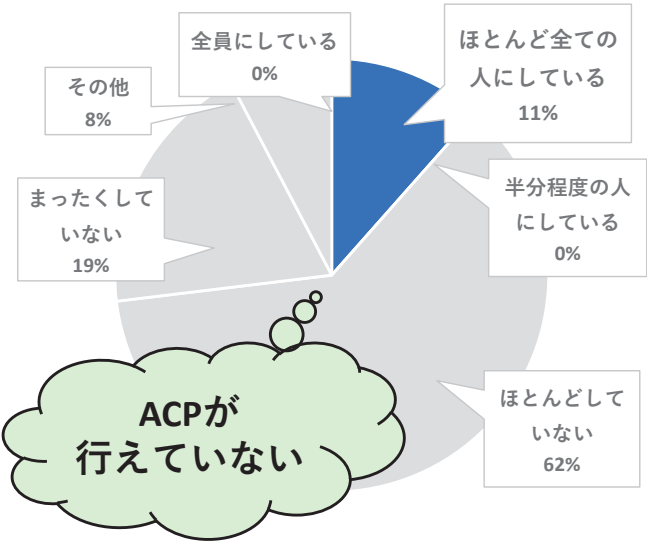
問1

施設入所時やサービス開始時にACPを意識した
「人生の最終段階における医療・ケアに関する希望」について、
本人・家族と話し合いをしていますか

入所型施設

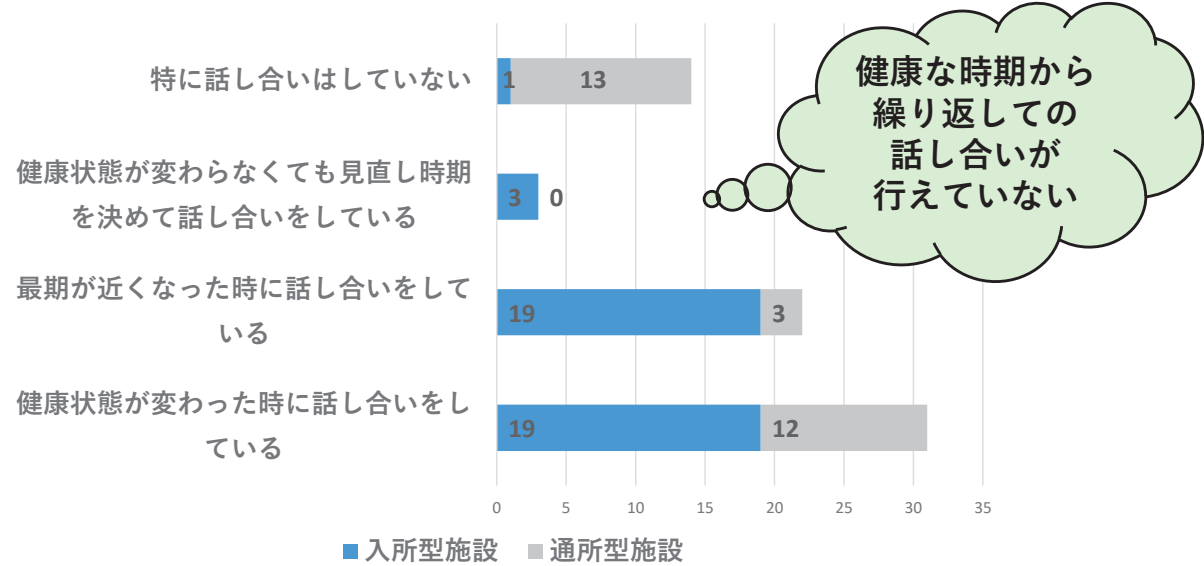


通所型施設



介護保険施設アンケート

問2 施設入所後やサービス開始後にACPを意識した
「人生の最終段階における医療・ケアに関する希望」について、
本人・家族と話し合いをするタイミングがあれば教えてください
(複数回答可)



介護保険施設アンケート

問3 看取りの場面で困った経験や、質問ご意見があれば記載してください
(入所施設のみに聞き取り)

家族の課題

- 看取り期になにもしないことを「見捨てる」ような感覚になり、必要以上の点滴を希望される。
- 終末期であることを理解されず回復すると考えておられる。
- 家族間で意見の相違がある。

職員の課題

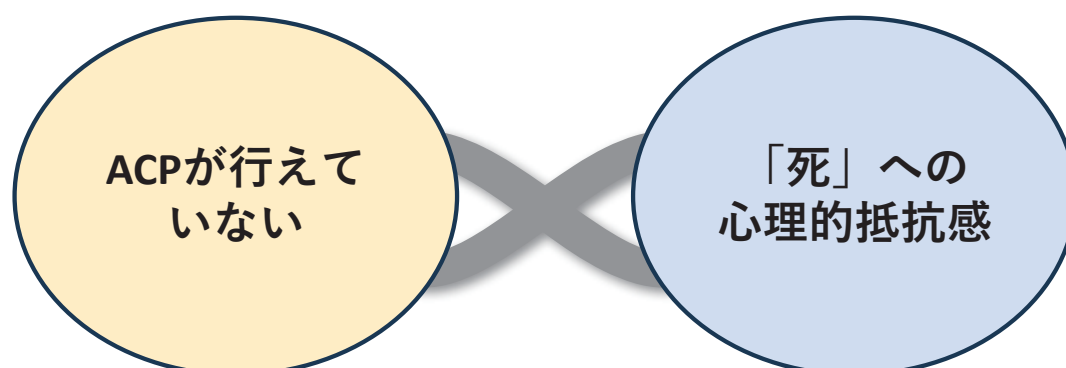
- 介護士が看取りを怖がって関わりたがらないことがある。
- 職員全員に看取りの経験がなく、家族のケアまで目が届かない。
- 看取り期に食事や点滴を止めることに抵抗がある介護士がいる。

ACP不足

「死」と向き合えていない

看取りの経験不足

アンケートから見えてきたもの



ACPが行えていないから「死」に向き合えていない？
「死」に向き合えていないからACPが行えていない？

アンケートから見えてきたもの

『一般国民のみならず医療職も死をネガティブに捉える傾向があることを踏まえると、もしものことを両者が話し合うことは文脈的にも難しい。』

『死を自分自身で体験できないからこそ、他者から学ぶ死の体験が重要である。』

（大野，2023，「アドバンスケアプランニングの前提として死生観教育は必要か」）

専門職こそ他者から死を学び
死生観を問い直す必要がある

今年度の取組み

◇専門職向け講演会（阿倍野区在宅医療・介護連携推進会議主催）

ドキュメンタリー映画 「いきたひ」 ～ 看取り・命のバトン ～ 上映会

名も無き四児の母が、夫の生き様・死に様を
ホームビデオで撮ったドキュメンタリー

2026年2月21日（土）

14：00～16：30

場所：大阪市立阿倍野中学校

定員：100名



おわりに

- アンケートの結果から、ACPの推進と、看取り介護の質の向上のためには、死生観教育が必要と推測。
- ドキュメンタリー映画を上映し、第三者の死から学ぶ死生観教育を計画。
- 死生観教育には「考えたくない人への配慮」も必要。研修後のアンケート結果から、その効果を図り、今後のACP推進の参考としたい。